

研究・調査報告書

報告書番号	担当
107	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Lifestyle factors associated with atrophic gastritis among Helicobacter pylori-seropositive Japanese-Brazilians in Sao Paulo サンパウロ在住の日系ブラジル人におけるヘリコクターピロリー血清抗体陽性者の萎縮性胃炎と生活習慣との関連	
執筆者 Ito LS, Oba-Shinjo SM, Marie SKN, Uno M, Shinjo SK, Hamajima N, Tajima K, Tominaga S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Int J Clin Oncol 2003;8:362-368.	
キーワード 萎縮性胃炎、生活習慣、ヘリコクターピロリ、日系ブラジル人	
要旨 どのような生活習慣がヘリコクターピロリ感染から萎縮性胃炎に発展するかは明らかでない。日系ブラジル人は日本人のように萎縮性胃炎が多く、これがどのような生活習慣と関連しているかを症例対照研究にて検討した。 656人の30-69歳日系ブラジル人ボランティアを得た。この内、291人がヘリコクターピロリ抗体陽性であった。陽性者を今回の研究対象者とした。萎縮性胃炎は血清ペプシノーゲンで判定した。 世代間で萎縮性胃炎の有病率に差はなかった。喫煙、飲酒習慣とも関連がなかった。教育歴と米飯の摂取頻度に負の関連があった。米飯の摂取頻度が多いほど萎縮性胃炎を予防できる可能性がある。	